

男鹿地域における思春期保健活動に関する研究

佐藤キヨ，渡部正，佐々木蓮子
白土明子，清水昱子，佐藤静

要約：秋田保健所男鹿支所管内は、男鹿市(人口35,780人)及び若美町(人口8,606人)の1市1で、日本海に突き出した半島全域である。男鹿半島は、文化財等多くの観光資源に恵まれている。当支所の地区診断の結果、人口死産率(54.6%)と妊婦貧血(97.1%)が、県平均(47.8)(92.8)より高く、又、産婦人科医から20才未満の人口妊娠中絶数が多く、特に男鹿地区の高校生が多いとの情報を得た。そのため、思春期保健の地域との連携の第一歩として、母親予備群である高校生を対象に、思春期保健学級を実施しているのでこれまでの内容を分析した。尚、事業の半ばで養護教諭によってタバコの害についてのアンケート調査が行われ、学級終了後に両校の感想文提出も行ったので合わせて報告する。

見だし語：母親予備群、思春期学級、アンケート調査、感想文

研究方法：男鹿管内には高校が3校あり特に男鹿高校(女子生徒442名・男子生徒175名以下0高校とする)は女生徒が多いので、昭和61年度から対象校とした。尚、水産高校(男子生徒245名、女子生徒58名以下S高校とする)は男子が多いので、平成元年度から対象校に加えた。

0高校は養護教諭を通し、思春期学級の理解を得るよう学校長に働きかけを依頼したS高校は学校医を通し、校長の理解を得た。

具体的計画は、学校長、養護教諭、保健所側の協議により、0高校は年3回、S高校は年2回課外授業とし、それぞれの学校に定着するまで保健所業務として行うこととした。尚、両校とも「性のみだれ」「欠食」等、具体的問題意識があり、学級内容としては専門医師の協力を得ることとした。

秋田保健所男鹿支所

(Oga Branch of Akita Public Health Center, Akita Pref)

結果と考察

0高校は昭和61年から平成元年度までの間に「性を考える」「人口妊娠中絶の害」「女性の貧血」等の専門医の講演及び話しあい医師及び保健婦による「家族計画」「タバコの害」等について健康教育を行った。

S高校は今年度から開始しているが、「食生活の問題」「タバコの害」について医師の講演と話し合いを行った。

S高校の学級開催については、昭和63年の保健所における地域保健医療対策協議会保健部会の保健所業務報告の中で、0高校の昭和61年からの状況を報告した席において、S高校の校医である地元医師より、S高校へも実施してほしいとの強い要望が出された。同医師より学校長への働きがなされ、全校生徒300名を対象に開催の運びとなった。

0高校は開始3年目に養護教諭が自発的に3年生にタバコについてのアンケート調査を実施したその結果女子が多いにもかかわらず72.7%が喫煙を経験しており、すでに習慣化しているものが21.2%いることを確認した。このことからタバコについての早期教育の必要を痛感した。尚、0高校は昭和63年にS高校は初年度から、タバコ及びアルコールについても教育内容に加えることとした。

S高校は今年度からの開催にあたり、事前に0高校と同様にタバコのアンケート調査を行ったところ、男子では吸い始めが中学生からと答えたものが58%、女子では高校1.2年生からと答えたものが60%と経験しているものが多いことが判明した。

学級開催の生徒への反響並びに、今後の在り方等を検討する目的で学校側の了解を得て感想文の提出を0高校は63年、S高校は平成元年に行った。その結果、家族計画については「胎児まで影響がある」「自分の体は自分で守る心がまえでこれからの人生を幸せに生きてゆきたい」「妊娠、避妊は女性が直接体験することだから中途半端な知識や気持ちでは絶対に行うべき行為ではない」「大切な事なので3年生だけでなく、他学年にも聞かせたい」等の感想が多く、タバコについては「生まれてくる子供にも影響がある」「吸わない人にも害がある」などが理解され、アルコールについては、依存症への恐怖「胎児まで影響があることを始めて知った」等の気持ちののべられている。

食生活については、両校とも列車通学生が多く、欠食及び部活動後のインスタント食品による補食が目立っている現状であるが、受講後の感想では「現在の自分の食生活について考えさせられる」と言った意味の反省が多く見られた。以上の始く、学級開催の生徒への影響は極めて強く、地域への連携の第一歩としての本事業の意義も深いものと思われる。

特に0高校の3年目で、校医を通してS高校が加わり、養護教諭の自発的なタバコのアンケート調査等も行われた事は、連携のあり方として大事なことと思われる。次年度からは、これまでの状況を核に、思春期の子供をもつ親、現場の教師生徒本人の健全な生活への方策等を検討していきたい。

文献

- 1)林謙治:思春期保健の動向,公衆衛生,51(4)224~229,1987.
- 2)伊藤桂子:地域における思春期保健活動公衆衛生,51(4)263~271,1987.
- 3)河野美代子:10代の性に対する理解と援助のあり方,保健婦雑誌44(6)11~17,1988.
- 4)飯村富子:思春期保健の取り組み,保健婦雑誌,44(6)18~23,1988.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:秋田保健所男鹿支所管内は、男鹿市(人口 35,780 人)及び若美町(人口 8,606 人)の 1 市 1 で、日本海に突き出した半島全域である。男鹿半島は、文化財等多くの観光資源に恵まれている。当支所の地区診断の結果、人口死産率(54.6%)と妊婦貧血(97.1)が、県平均(47.8)(92.8)より高く、又、産婦人科医から 20 才未満の人口妊娠中絶数が多く、特に男鹿地区の高校生が多いとの情報を得た。そのため、思春期保健の地域との連携の第一歩として、母親予備群である高校生を対象に、思春期保健学級を実施しているのでこれまでの内容を分析した。尚、事業の半ばで養護教諭によってタバコの害についてのアンケート調査が行われ、学級終了後に両校の感想文提出も行ったので合わせて報告する。